

痔の手術

日帰りで注射治療普及

今回の病院の実力は「痔の手術」を取り上げる。痔の治療を行う肛門科には技術差があり、経験の少ない医療機関で手術を受ける、痔は治っても排便がしにくくなるなどの問題が起こりかねない。確かな技術を持つ医療機関を選びたい。

内痔核と外痔核の両方がある場合は、内痔核にALT、外痔核に結紮切除を行う「併用治療」が多く行われる。痔ろうは、直腸と肛門の

境から細菌が侵入し、肛門の近くにウミがたまった細い管ができる。治すには手術が必要で「根治手術」の数を聞いた。消化器疾患の専門医は多いが、肛門領域が得意な医師は少ない。そこで、各医療機関で手術を行う医師のうち、日本大腸肛門病学会の専門医を肛門領域で取得した医師の数を聞き、一覧表の「肛門領域の専門医」に掲載した。

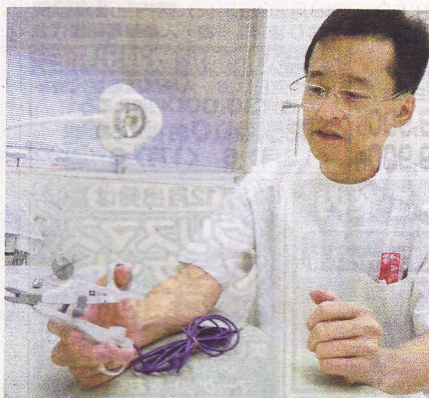
病院の実力

*香川編 115

通称「いぼ痔」と呼ばれる痔核には、直腸末端の粘膜にできる内痔核と、肛門周囲の皮膚にできる外痔核がある。内痔核が大きくなると、肛門周囲の皮膚に広がって外痔核も生じ、痔核が肛門の外側に飛び出してくる。

肛門領域の専門医であり、年間200例以上の治療実績がある「ヤノ肛門外科クリニック」(高松市)の矢野孝明副院長(46)に最新の治療法や予防法などについて聞いた。

ヤノ肛門外科クリニック (高松市)
矢野孝明副院長



「止血用電気メスを使えば出血と痛みを抑えることができる」と話す矢野副院長(高松市で)

椅子に長時間若い患者増加

効成分である硫酸アルミニウムカリウム水和物、タンニン酸の頭文字をとってALTと名付けられ、注射翌日から出血が止まり、数日で痔核が脱出しなくなりました。

痔核を切り取る手術とは違い、痛みはほとんど感じず、傷口が痛むというようなことはない。日帰り治療が可能となりまして、1000件以上のALT治療を行いました。9割以上の患者が「痛くない」と感想を述べており、主流の治療法になっています。

内痔核と外痔核の両方があり、根本治療を目指すならALTと結紮切除との併用治療を行います。内痔核はALTで治療。外痔核は結紮切除し、傷口を糸でふさぎます。ただ、結紮切除は痛みが伴い、血管が集まっている場所なのでかなりの出血もあります。

当院では「リガシユア」と呼ばれる止血用電気メスを手術の際に使っています。切除しながら傷口をふさぐため、手術中の出血を抑え、術後の痛みを和らげることが出来ます。こちらの日帰り治療が可能になりました。

最近10代、20代といった若い患者さんが増えていきます。痔核は便秘や排便時のいきみなど肛門に負担をかけることで、肛門周囲の血流が悪くなったり、うっ血したりすることで悪化します。デスクワークで椅子に長く座っていることなどの影響と考えられています。

予防には▽便秘や下痢に気をつける▽排便時に無理にいきまない▽アルコールや刺激物は控える▽デスクワークや車の運転などで長時間同じ姿勢を続けない▽ことが大切。そして異常を感じたら、恥ずかしがらずに専門医に相談し、正しい診断を受けることが重要です。

病院の実力「痔の手術」 医療機関別2016年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	痔核の結紮切除 (件)	痔核のALT療法 (件)	結紮切除とALTの併用 (件)	痔ろうの根治手術 (件)	肛門領域の専門医 (人)
香川県					
ヤノ肛門外科ク	35	122	151	25	1
和光会前田	58	18	46	71	1
県立白鳥	—	—	—	5	1
愛媛県					
大橋胃腸肛門科外科医院	278	15	160	124	2
立花ク	43	122	110	47	0
胃大腸おおにし肛門科	54	124	55	70	1
佐藤実	4	0	0	35	1
高知県					
おの肛門科胃腸科外科	540	27	128	204	2

「ク」はクリニック。「—」は無回答または不明。徳島県の対象医療機関からは回答がなかった。

*全国の調査結果は「くらし健康・医療面」に掲載しています。

痔核を切り取る手術とは違い、痛みはほとんど感じず、傷口が痛むというようなことはない。日帰り治療が可能となりまして、1000件以上のALT治療を行いました。9割以上の患者が「痛くない」と感想を述べており、主流の治療法になっています。

(聞き手 妻鹿国和)